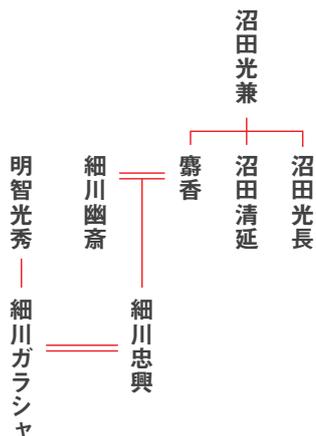


# 若狭と近江の 国境・熊川と 明智光秀の 関係

**若狭** 狭と畿内を結んだ街道、いわゆる鯖街道のうち、最大の物流量を誇った若狭街道。小浜から熊川、滋賀県・朽木、花折峠を越えて京都・大原から出町柳に至るその道程は、室町・戦国時代は軍事上の大きな役割も果たしているのです。その要所となったのが、近江国との国境である熊川です。この熊川と戦国一の知将、明智光秀とのゆかりを探ります。

足利將軍直属の家臣で、若狭と近江の国境の熊川城主でもあった沼田光兼。光兼の娘、麿香は、同じく足利直属の家臣、細川幽斎（藤孝）の妻となった人物です。麿香は度量が広くしつかり者で、関ヶ原の戦いの

関係系図



前哨戦である田辺城の戦い（慶長5（1600）年）では、女性でありながら具足を身にまとい籠城し、紅をもつて陣営を描いたりしたといわれています。幽斎に側室はおらず、麿香を生涯一人の妻として添い遂げました。幽斎は光秀の盟友でもあり、

足利義昭の將軍任官に奔走したこと  
で知られていますが、その夫を支え、  
細川家の礎を築いた賢夫人が熊川出  
身の麿香だったのです。

また、幽斎、麿香の間に生まれた  
長男、細川忠興の夫人となったのが  
受洗名をガラシャとされた、光秀の  
娘、玉です。麿香は玉の姑になります。

この明智の血を引き、細川家の家  
臣となった一族に三宅氏がありま  
す。三宅家には、光秀が書いた手紙  
が残されています。それは、織田  
信長に重用され熊川に先に着いた光  
秀から、足利の近臣である幽斎ら三  
人に宛てたものです。日付は、永禄  
13（1570）年卯月廿日となつて  
おり、朝倉攻めに際して、信長自身  
が熊川に到着して越前に向かう2日  
前のものです。この手紙に、武田家  
の老中が熊川において信長を迎える  
ことや、越前口や近江北部には何も  
問題はないことを伝え、何かあれば  
申し上げるなどと書かれています。  
手紙は、戦いの直前の状況を伝える  
第一級の史料です。この史料は、幽  
斎、信長、羽柴秀吉、徳川家康に加  
えて、光秀も熊川に確かに着陣した  
ことを裏付けるものです。

国境の要衝、熊川。光秀とゆかり  
の深いこの地は、その後、若狭国主

となった浅野長政によって宿場町と  
して整備が進められます。そして、  
江戸時代には、問屋、旅籠、商家な  
ど200戸が立  
ち並び、人と物  
が行き交う街道  
の要所として大  
きな発展を遂げ  
ていくのです。



永禄13年4月20日付  
明智光秀書状『三宅家文書』

（三宅久美子氏寄贈・熊本  
県立美術館蔵）

## 関連史料・ゆかりの地

### 沼田氏供養塔 （得法寺）



山城であった熊川城の下方にある得法寺の東側に、沼田家の供養塔とされる石塔が現在も祀られています。平成5年には、細川家17代当主、細川護貞氏が、熊川宿の国の重要伝統的建造物群保存地区選定に向けた応援のために、この地を訪れています。

【住所】三方上中郡若狭町熊川33-26  
（JR上中駅からJRバス若江線「若狭熊川」下車徒歩6分）

### 参考資料等

三宅家史料刊行会編『明智一族 三宅家の史料』清文堂出版  
稲葉継陽『信長に重用されはじめた光秀の手紙』細川ガラシャ 熊本県立美術館

### 執筆・協力

若狭町歴史文化課